

## 「小さな親切」運動本部賞

### ちょっとした親切

福岡県 洞北中学校 一年  
野田 統希

近年 AI は、飛躍的な進化を遂げ、人間の能力をはるかに上回る時代になってきている。将来、人間の仕事は AI に取って代わり、何もしなくていい時代が来ると言われている。

しかし、AI がすべてにおいて、人間を上回っているわけではなく、AI にも僕たち人間と同じく苦手なこともある。それは、人の感情を正確に理解することだ。これは、今後、AI が発達しても人間にしかできないことだ。

例えば、「もう結構です」という言葉があるが、声の大きさや口調、表情によって怒って興奮している場合や、諦めて気持ちが沈んでいる場合など、同じ言葉でも何通りもの意味が存在する。このように、人間同士の会話の中には一つの言葉でも大きく意味が違ったり、正反対の意味になったりする場合がある。

はたして、AI がこの感情の違いを人間と同じように正確に判断し、その場の空気を読み取ることができるだろうか。

僕が中学に入ってすぐ、こんなできごとがあった。お母さんが運転する車に乗っていたとき、渋滞していて脇道から入れずにいる車がいたが、前を走る車は誰も譲ってあげずにいた。

なにげなく僕もその様子を見ていたが、それに気づいたお母さんは、速度を落として、その車に道を譲ってあげたのだ。そして、そのときお母さんが、

「いま道を譲ってあげた人が、また別のところでほかの人に道を譲ってあげればいいね。」と言ったのを憶えている。

みんな親切にされれば嬉しい気持ちになり、優しい気持ちになることができる。みんなが優しい気持ちになることができれば、みんなが他人を思いやり親切になることができると思う。そうすれば、世の中に「親切の輪」が広まり、すばらしい社会になっていくと思う。

AI による自動運転の技術もすごいと思うが、さっきの場面で AI にお母さんと同じような判断ができるだろうか。たぶんルール通りに走行し、譲ることはないと思う。正確にルールを守ることが、AI にとっては正解であり、ルールに反することは、エラーであり、そんな AI は不良品なのである。

しかし不思議なことに、このエラーであり不良品である行動は、ときに思いやりのある優しい運転として人間の気持ちを嬉しく、また優しくするものである。世界中の頭のいい科学者がどれだけ研究し開発をしても、お母さんのようなエラーを犯して、ちょっとした親切を実行し、人の気持ちを優しくさせる AI は作れないと思う。僕には、賢い AI を作る頭脳はないけれど、お母さんのような、ちょっとした親切ならできる気がする。

「ちょっとした親切」、これはその場の空気を読み取り、相手の気持ちを正確に汲み取ることでできる人間にしかできないことだ。

これからは、僕がこのちょっとした親切の輪を広げていき、いつしか親切があふれる優しく思いやりのある世の中を作っていきたい。